

# 平成29年度 鹿児島県立伊集院高等学校 シラバス

**1年生用**



**1年( )組( )番**  
**氏名( )**

## シラバスって何？

シラバスとは、各学校の教育活動に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載されます。

## シラバスの語源

英語のシラバス(syllabus)は、ギリシャ語の *sittuba*、すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」、または「標題紙」という意味の言葉を語源とします。

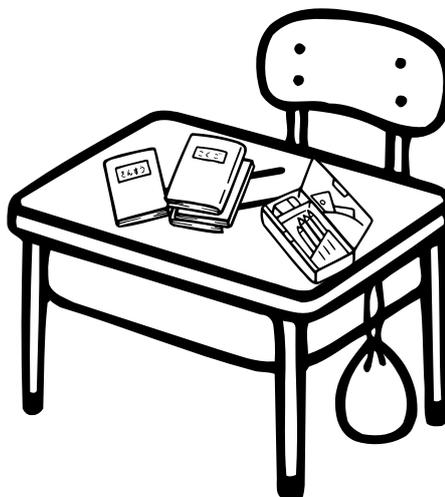
## 伊集院高校シラバス活用のポイント

本校のシラバスは、教科・科目ごと1頁に、次の項目をまとめてあります。

- (1)教科・科目の目標
- (2)学習のねらい・学習内容
- (3)試験範囲・出題方針
- (4)評価の観点・方法
- (5)学習のアドバイス

みなさんがより効果的に学習を進めていけるように、教科・科目によっては、学習内容の順番や時期を変えたり、内容を精選してあるものもあります。シラバスに記載された各教科・科目の学習目標にしたがって家庭での学習計画を立案・実践してみましょう。きっと、すばらしい成果があがると思います。

学年や文理のコースによっては、進学に向けて教科書早期採択を行ったり、大学に備えた授業を展開する教科・科目もあります。シラバスを熟読し、学年末には各教科・科目の到達目標をクリアできるよう期待します。



教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
国語	国語総合	5	必修	一斉	普通	1

No. 1

国語総合

教科書（発行所）	精選 国語総合（東京書籍）
教科書以外の教材	1 『頻出漢字マスター3000』（尚文出版） 2 『最新国語便覧』（浜島書店） 3 『新精選古典文法』（東京書籍） 4 『精選漢文』（尚文出版）

目 標	国語を的確に理解して表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。 思考力や想像力を伸ばして心情を豊かにし、言語感覚や言語文化に対する関心を深める。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考査等
一学期	4月	随想 届く言葉 古文入門 古文を読むために 漢文入門 訓読の基本	・随想の読み方を習得する。 ・古文を声に出して読み、慣れるとともに説話の面白さを味わう。 ・訓読のきまりを理解し、漢文についての関心を高める。	新入生テスト
	5月	小説（一） 羅生門 古文入門 児のそら寝 漢文入門 格言	・小説という虚構の中で人間という存在について考える。 ・物語の展開をしっかり読み取り、登場人物の心理を読み進める。 ・訓読のきまりを理解し、漢文についての関心を高める。	中間考査
	6月	評論（一） 水の東西 古文入門 絵仏師良秀 漢文入門 故事成語	・評論の文章について論理の展開や要旨を的確に捉える。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・我々の身近にある言葉の語源を知り、その意味を理解する。	
	7月	詩歌 冬が来た ほか 物語 竹取物語 寓話 借虎威	・詩の世界に触れ、作者の思いを読み解く。 ・「かぐや姫」の話を古文として読み進め楽しむ。 ・我々の身近にある言葉の語源を知り、その意味を理解する。	期末考査
	8月	評論（二） 時間と自由の関係について 物語 竹取物語 寓話 塞翁馬	・身近な話題について、筆者の考えを論理的に読み解く。 ・「かぐや姫」の話を古文として読み進め楽しむ。 ・我々の身近にある言葉の語源を知り、その意味を理解する。	実力考査
二学期	9月	小説（二） 城の崎にて 物語 伊勢物語 史話 晏子之御	・小説を楽しむとともにその主題について考える。 ・歌物語の文学史的意義を知るとともにその魅力を楽しむ。 ・漢文を書き下し文にすることに慣れながら読解力をつける。	
	10月	評論（二） 欲望と科学 物語 伊勢物語 史話 管鮑之交	・評論の読解方法を習得する。 ・登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・登場人物の心情を読み解きながら読解力をつける。	中間考査 実力考査
	11月	評論（三） 真の自立とは 随筆 徒然草 漢詩 唐詩	・筆者の主張を追いながら主題を的確に捉える ・「徒然草」の文学的意義を学び、兼好法師の人生観を考える。 ・漢詩のきまりを学び、その面白さを味わう。	期末考査
	12月	短歌と俳句 一五の心ほか 随筆 枕草子 漢詩 唐詩	・韻文の魅力を知り、短歌や俳句について学ぶ。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・漢詩のきまりを学び、その面白さを味わう。	
三学期	1月	評論（三） ものと記号 日記 土佐日記 思想 論語	・言葉と意味の関係について理解を深める。 ・日記文学について学ぶとともに、当時の人々の生活に触れる。 ・日本人に大きな影響を与えた孔子の思想を学ぶ。	実力考査
	2月	小説（三） 富嶽百景 軍記物語 平家物語 思想 論語	・すぐれた描写、効果的な表現効果を学び、言語感覚を磨く。 ・声に出して読み、独特のリズムを味わうとともに歴史を学ぶ。 ・日本人に大きな影響を与えた孔子の思想を学ぶ。	学年末考査
	3月	評論 白 和歌と俳諧 思想 孟子	・ディベートの形式と手順を理解し、実際にディベートを行う。 ・和歌や俳句によまれた思想・感情・情景を読み取る。 ・日本人に大きな影響を与えた儒家の思想を学ぶ。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	「予習→授業→復習」の繰り返しで学力の定着を図ることが最も大切です。予習の仕方やノート の取り方については、授業の最初の時間に指示します。授業で学ぶ基礎的な知識を重視しながら、自ら考える習慣、自宅学習する習慣を育ててください。1年次に学ぶ学習内容は重要ですので、繰り返し復習するよう心がけましょう。また、積極的に読書にも取り組みましょう。			
評価の観点	1 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 2 話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと 積極的に自分の考えを深め、発展させる。 3 知識理解 伝統的な言語文化や言葉、漢字などについての知識を身につける。			
評価の方法	定期考査6割、実力考査2割、平常点2割で評価します。平常点は出席状況、授業への取り組み、提出物の状況、小テストの結果などから総合的に評価します。			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
公民	現代社会	2	必修	一斉	普通	1

No. 2

現代社会

教科書（発行所）	最新現代社会 新訂版（実教出版）
教科書以外の教材	最新現代社会資料集 2017（第一学習社） 最新現代社会 新訂版 演習ノート（実教出版）

目 標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	第2部 現代の社会と人間 1編 青年期と自己の形成	青年期の意義や課題について考え、社会との関わりの中でどのように生きていくかについて考える。	
	5月 定期考查	1編 青年期と自己の形成	伝統や文化が日常生活に与える影響に着目し、現代社会における青年の生き方について自覚を深める。	中間考查
	6月	3編 現代の経済社会と国民生活	現代の経済社会の変容について理解を深め、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察する。	
	7月 定期考查	2編 現代の民主政治と政治参加の意義	人権の保障、国民主権、議会制民主主義、権力分立、法の支配など民主政治の基本原則などについて理解を深める。	期末考查
	8月	2編 現代の民主政治と政治参加の意義	基本的人権や国の運営のしくみについて理解を深め、国家と個人の関わりについて考える力を養う。	
二学期	9月	2編 現代の民主政治と政治参加の意義	地方自治の本旨や選挙制度について理解を深め、公民として積極的に政治に関わる姿勢をつくる。	
	10月 定期考查	3編 現代の経済社会と国民生活	経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察し、政府の役割と財政、租税、金融について理解を深めさせる。	中間考查
	11月 定期考查	3編 現代の経済社会と国民生活	日本の雇用、労働、社会保障について理解を深めるとともに、今後の日本経済の在り方について考察する。	期末考查
	12月	4編 国際社会と人類の課題	グローバル化が進展する国際社会の政治の動向を理解し、国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮について理解する。	
三学期	1月	4編 国際社会と人類の課題	国際社会における貧困や格差について理解し、これからの日本の国際社会で果たすべき役割について考察する。	
	2月 定期考查	4編 国際社会と人類の課題	国際経済の動向について理解を深め、国際経済における諸問題について考察を深める。	学年末考查
	3月	第1部 わたしたちの生きる社会	現代社会におけるさまざまな問題について考察し、自分たちの問題として考える。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前に教科書を読み、授業ノートの予習をしておくこと。</li> <li>・新聞やニュースなどを見て世の中の動きに興味・関心を持つこと。</li> <li>・授業内容を日常生活と結びつけて主体的に考えるように努力すること。</li> </ul>			
評価の観点	<ol style="list-style-type: none"> <li>①現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究し、その在り方について考察しようとしている。</li> <li>②現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</li> <li>③現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。</li> </ol>			
評価の方法	具体的な評価は定期考查を基準とするが、出席状況、授業への取り組み、ノート・課題提出状況などを適切に活用して総合的に行う。			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学 I	3	必修	一斉	普通	1

No. 3

数学 I

教科書（発行所）	改訂版 新編数学 I （数研出版）
教科書以外の教材	類比方式による2016数学 I ・ A （九州数学教育会） チャート式解法と演習数学 I + A （数研出版）

目 標		数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。	
学期	学習時期	学習内容と目標	考查等
一 学 期	4月	<b>第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数</b> 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的に見たり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 1 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をする。 2 2次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりする。	第1回実力考查
	5月	<b>第3節 1次不等式</b> 3 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めたり1次不等式を事象の考察に活用したりする。 <b>第2章 集合と命題</b> 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用する。	1学期中間考查
	6月	<b>第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化</b> 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 事象から2次関数で表される関係を見出す。また、2次関数のグラフの特徴について理解する。 2 2次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりする。	1学期期末考查
	7月	<b>第3節 2次方程式と2次不等式</b> 3 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を2次不等式で表し2次関数のグラフを利用してその解を求める。	
	8月		第2回実力考查
二 学 期	9月	<b>第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用</b> 三角比（正弦・余弦・正接）の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。 2 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める。 3 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。 4 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用する。 以降は、数学Aを学習する。	2学期中間考查
	10月		
	11月	<b>第5章 データの分析</b> 統計の基本的な考えを理解するとともに、それらを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 1 四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し説明する。 2 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて2つのデータの相関を把握し説明する。 12月以降は、数学IIの内容を学習する。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え理解することに集中する。	
評価の観点		○評価の観点は、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○単元や各授業の学習過程で、評価の観点の4項目について、良い点や進歩の状況などを評価し、その累積と定期考查等の状況及び出席状況により各学期ごとにまとめる。	
評価の方法		○具体的な評価は、授業の中での観察、ノート、日々題、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、単元ごとに単元テストを実施し、それらを用いた自己評価も必要に応じて取り入れる。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学Ⅱ	1	必修	一斉	普通	1

No. 4  
数学Ⅱ

教科書（発行所）	新編数学Ⅱ（数研出版）
教科書以外の教材	チャート式解法と演習数学Ⅱ+B（数研出版）

目 標		いろいろな式、図形と方程式、指数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。	
学期	学習時期	学習内容と目標	考查等
二 学 期	12月	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解するとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 1 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をする。また、整式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算する。 2 等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質などを用いて証明する。	第4回実力考查
	1月	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 1 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をする。また、2次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。 2 因数定理について理解し、簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求める。	
三 学 期	2月	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 1 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表す。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを二直線の位置関係などの考察に活用する。 2 座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用する。 3 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求める。また、簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりする。	学年末考查
	3月		
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかり身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え理解することに集中する。	
評価の観点		○評価の観点は、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○単元や各授業の学習過程で、評価の観点の4項目について、良い点や進歩の状況などを評価し、その累積と定期考查等の状況及び出席状況により各学期ごとにまとめる。	
評価の方法		○具体的な評価は、授業の中での観察、ノート、日々題、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、単元ごとに単元テストを実施し、それらを用いた自己評価も必要に応じて取り入れる。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学A	1	必修	一斉	普通	1

No. 5  
数学A

教科書（発行所）	改訂版 新編数学A （数研出版）
教科書以外の教材	類比方式による2016数学I・A（九州数学教育会） チャート式解法と演習数学I+A （数研出版）

目 標	場合の数と確率、整数の性質及び図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学期	学習時期	学習内容と目標	考查等
一学期	4～7月	数学Iを学習する	
	8月	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 三角形に関する基本的な性質について、それらが成り立つことを証明する。 2 円に関する基本的な性質について、それらが成り立つことを証明する。 3 基本的な図形の性質などをいろいろな図形の作図に活用する。 4 空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。また、多面体などに関する基本的な性質について理解し、それらを事象の考察に活用する。	第2回実力考查
二学期	10月	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解する。 2 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求める。	第3回実力考查
	11月	3 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求められるようにする。また、確率を事象の考察に活用する。 4 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求められるようにする。また、それらを事象の考察に活用する。 5 条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求める。また、それらを事象の考察に活用する。	
	12月	以降は、数学IIの内容を学習する。	2学期期末考查
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え理解することに集中する。		
評価の観点	○評価の観点は、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○単元や各授業の学習過程で、評価の観点の4項目について、良い点や進歩の状況などを評価し、その累積と定期考查等の状況及び出席状況により各学期ごとにまとめる。		
評価の方法	○具体的な評価は、授業の中での観察、ノート、日々題、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、単元ごとに単元テストを実施し、それらを用いた自己評価も必要に応じて取り入れる。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	科学と人間生活	2 (1学期のみ4)	必修	一斉	普通	1

No. 6

科学と人間生活

教科書（発行所）		東京書籍 改訂 科学と人間生活			
教科書以外の教材		ニューサポート 科学と人間生活（東京書籍）			
目 標		1. 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解する。 2. 身近な事象・現象に関する観察・実験などを通して、科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて理解を深める。 3. 科学の基本的な概念や原理・法則を学び、科学的な見方や考え方を養う。 4. 科学に対する興味・関心を高める。 5. 科学技術の在り方について市民が意思決定するために必要な、科学的な知識、能力、態度を身につける。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等	
一 学 期	4月～5月	序章 科学技術の発展 1編 生命の科学	科学技術の発達と課題を考える 生物と光の関係、微生物とその利用を理解する (実験) 光合成色素を調べる (実験) 酵母菌のはたらきを調べよう		
	5月～6月	3編 光や熱の科学	光と熱の性質とその利用を理解する (実験) 発熱反応と吸熱反応の違いを調べる	中間考查	
	6月～7月	4編 宇宙や地球の科学	天体と地球の特性と違いを理解する 自然景観と自然災害について理解する		
	7月～8月	2編 物質の科学	金属、プラスチックの特性を知り資源の再利用を考える 衣料、食品の特性を理解する (実験) 銅に亜鉛をめっきして黄銅をつくる	期末考查 実力考查	
二 学 期	9月				
	10月	「科学と人間生活」は1学期のみ4単位で学習します。2学期以降は「化学基礎」(4単位)の学習になります。			
	11月				
	12月				
1月					
三 学 期	1月				
	2月				
	3月				
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を重視し、板書はスピーディーに行う。</li> <li>・先生の話をよく聞いて、重要と思われるものはメモをとる。</li> <li>・復習を行い、分からないものをそのままにしておかない。</li> <li>・課題等の提出物は必ず期限内に出す。</li> <li>・教材の忘れ物をしない。</li> </ul>			
評価の観点		①科学に対する関心、意欲、態度。 (常に向上心を持って、ひたむきにそして誠実に努力する姿勢を大切にしたい。) ②科学に対する思考、判断、表現力。 (ただ単に暗記するのではなく、常に関連分野とのつながりを考え、その意味を理解するように努めて欲しい。) 			
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考查、実力考查</li> <li>・課題(考查訂正ノート、宿題)などの提出状況 (課題提出は期限を守る。ただ、終わらせればよいという考えではなく、確実に理解しながら取り組んで欲しい。)</li> </ul>			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	化学基礎	2 (2学期以降4)	必修	一斉	普通	1

No. 7  
化学基礎

教科書 (発行所)	東京書籍 改訂 新編 化学基礎				
教科書以外の教材	2017 化学基礎研究ノート (博洋社) 改訂版フォトサイエンス化学図録 (数研出版) Let's Try Note 化学基礎 (vol. 0～3) (東京書籍) 新リピートノート化学①～② (浜島書店)				
目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。</li> <li>2. 原子に構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。</li> <li>3. 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活や社会と関連付けて考察できる。</li> <li>4. 上記の目標を達成するために探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。</li> </ol>				
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考査等	
一学期	4月				
	5月				
	6月	「化学基礎」は2学期以降4単位で学習します。1学期の「科学と人間生活」(4単位)の学習が終わった後から開始します。			
	7月				
	8月				
二学期	9月	1編 物質の成り立ち 1章 物質の探究	物質の成り立ちと状態変化及び元素について理解する。 (演示実験) 蒸留・昇華・炎色反応		
	10月	2章 物質の構成粒子 3章 物質と化学結合	原子の電子配置および元素の周期律について理解する。 結合の仕組みについて理解し、結晶の特性を知る。	中間考査	
	11月～12月	2編 物質の変化 1章 物質と化学変化	原子量、分子量、式量について理解する。 物質について理解する。 化学反応式の示すことについて理解する。 係数が示す量的な関係について理解する。	期末考査	
三学期	1月	2章 酸と塩基	酸、塩基について理解する。 中和反応と塩の性質について理解する。 (生徒実験) 水溶液の性質を調べよう (生徒実験) 中和滴定	実力考査	
	2月～3月	3章 酸化と還元	酸化還元反応について理解する。 金属のイオン化傾向について理解する。 (生徒実験) 金属の反応性を調べる	学年末考査	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を重視し、板書はスピーディーに行う。</li> <li>・先生の話をよく聞いて、重要と思われるものはメモをとる。</li> <li>・復習を行い、分からないものをそのままにしておかない。</li> <li>・課題等の提出物は必ず期限内に出す。</li> <li>・教材の忘れ物をしない。</li> </ul>				
評価の観点	<ol style="list-style-type: none"> <li>①化学に対する関心、意欲、態度。 (常に向上心を持って、ひたむきにそして誠実に努力する姿勢を大切にしたい。)</li> <li>②化学に対する思考、判断、表現力。 (ただ単に暗記するのではなく、常に関連分野とのつながりを考え、その意味を理解するように努めて欲しい。)</li> </ol>				
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、実力考査</li> <li>・課題 (考査訂正ノート、宿題) などの提出状況 (課題提出は期限を守る。ただ、終わらせればよいという考えではなく、確実に理解しながら取り組んで欲しい。)</li> </ul>				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
保健体育	体育	3	必修	種目選択	普通	1

No. 8

体育

教科書（発行所）	ステップアップ高校スポーツ 2017 (大修館)
教科書以外の教材	

目 標		<p>1. 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正、協力、責任などの態度を身につける。</p> <p>2. 自己やグループの能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫し、必要な技能や体力を高めるために運動の合理的な行い方を身につける。</p> <p>3. 選択した運動種目の技術や戦術及び規則などを理解し、ゲーム・審判ができるようになる。</p> <p>4. 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、スポーツとのかかわり方や豊かなスポーツライフを設計し実践していく方法を身につける。</p>		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学期	4月～7月	<p>①オリエンテーション</p> <p>②体づくり運動</p> <p>③新体力テスト</p> <p>④球技選択A バドミントン・卓球 ソフトテニス</p> <p>⑤水泳 体操</p>	<p>「体育学習」の意義や内容、評価の方法を理解することで、活動内容が深まっていく過程とさらに楽しむための工夫ができる。</p> <p>自己の体力や生活に応じて、心と体をほぐしたり体力を高める運動を行うことで、健康を保ったり体力の向上が図れる。</p> <p>新体力テストをとおして、自己の現在の体力を把握し、よりよく体力を高めるために自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を養うことができる。</p> <p>自分の興味にあった種目を選択し、基本的な技術を習得するとともにグループで目標・計画を立て、安全に配慮した効果的な練習と協力してゲーム・審判・評価等の活動ができる。</p> <p>各自の能力に応じた泳法をマスターし、いろいろな泳法で早く泳ぐなど、記録向上の喜びや競技の楽しさを味わう。集団行動や、ラジオ体操第2など、基本的な体の動かし方を身につける。</p>	<p>4月に新体力テストを実施します。</p> <p>球技選択A・水泳・体操については、体育授業時に実技評価を行います。</p>
2 学期	8月～12月	<p>⑥陸上A 短距離走・リレー等</p> <p>⑦球技選択B バレーボール・ソフトボール ソフトテニス</p> <p>⑧陸上B 長距離走</p>	<p>各自の能力に応じた走法をマスターし、記録向上や競争の楽しさを味わい各種目特有の技術を高めることができる。</p> <p>自分の興味にあった種目を選択し、基本的な技術を習得するとともにグループで目標・計画を立て、安全に配慮した効果的な練習と協力してゲーム・審判・評価等の活動ができる。</p> <p>効率のよいフォームをマスターし、ペース配分などを工夫し記録向上や競争の楽しさを味わうことができる。</p>	<p>陸上B・球技選択Bについては、体育授業時に実技評価を行います。</p>
3 学期	12月～3月	<p>⑨球技選択C バスケットボール・サッカー・テニス</p>	<p>自分の興味にあった種目を選択し、基本的な技術を習得するとともにグループで目標・計画を立て、安全に配慮した効果的な練習と協力してゲーム・審判・評価等の活動ができる。</p>	<p>球技選択Cについては、体育授業時に実技評価を行います。</p>
年 間		⑩体育理論	年間を通して理論を学習することで、効率よく運動に取り組むことができる。	年間を通してレポート作成に取り組み、3学期に提出します。
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<p>1. 運動の楽しさを味わうために自ら進んで活動することが求められています。運動が苦手な人も、これまでの経験からくる運動嫌いのイメージや苦手意識に固執することなく、新たな気持ちで授業に臨むことから始めましょう。</p> <p>2. 自分と仲間の持つ課題を見つけようとする意欲が大切です。自分だけに留まらず仲間の気持ちや体の状態に目をむけ、問題点や解決方法を見つめる努力をしましょう。また、自分と仲間の現状を見つめることができる感性を身につけましょう。</p> <p>3. 体育にとっての「学力」とは、基礎的な知識・技能のもとに意欲を持って「スポーツを実践する力」です。日頃のスポーツ実践に心掛けましょう。</p> <p>4. 授業はチャイムと同時に始まります。移動は休み時間に完了し、見学者は授業前に担当者に申し出て指示を受けます。また、服装は学校指定の体育服を着用し、こまめな洗濯で衛生面にも留意しましょう。貴重品の管理は自己管理が原則です。</p>		
評価の観点		<p>「関心・意欲・態度」(30%)・・・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動をしようとしているか。公正、協力、責任などの社会的態度が身についているか。健康や安全に留意して運動しようとしているか。</p> <p>「思考・判断」(30%)・・・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫しているか。</p> <p>「運動の技能」(20%)・・・自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めているか。</p> <p>「知識・理解」(20%)・・・社会の変化とスポーツ・運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身につけているか。</p>		
評価の方法		4つの観点に基づいて評価された前・後期と各領域(各運動や理論)の成績及び体育行事の取り組み方・結果分析等を総合して学年の成績とします。学年の評定は、他教科に準じて5段階によって示されます。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
保健体育	保健	1	必修	一斉	普通	1

No. 9

保健

教科書（発行所）	現代高等保健体育改訂版（大修館 保体304）
教科書以外の教材	現代高等保健体育ノート（大修館）

目 標		<p>1. 個人や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てる。</p> <p>2. 健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について課題解決の役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につける。</p> <p>3. 心身の健康や安全に関する課題解決ができるようになり、適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断できる力を身につける。</p>			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等	
1 学期	4月	1 単元 現代社会と健康			
		健康のすがた・とらえかた	健康問題の変化を具体的に理解するとともに、健康の定義、健康のための成立要因や条件等を考える。		
	6月	応急手当の意義とその基本 心肺蘇生法 日常的な応急手当	応急手当の意義と基本や心肺蘇生法に興味を持ち、原理を知ることが、積極的に生命を救うことにつながることを理解する。	消防署に依頼し、心肺蘇生法の実技講習会を実施します。	
	5月～7月	健康と意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり 生活習慣病とその予防 食事・休養・睡眠と健康 喫煙・飲酒・薬物乱用	生活習慣病、喫煙、飲酒、薬物乱用等に関して知的・科学的に理解するとともに、具体的な対策を考える。	1 学期期末考查	
2 学期	9月～12月	感染症とその予防 性感染症・エイズとその予防 欲求と適応規制 心身相関 ストレスへの対処 心の健康と自己実現	性感染症・エイズ等をめぐる状況について、具体的な対策を考える。  心と体の関係から欲求・心身相関・ストレスについて理解する。	2 学期期末考查	
3 学期	1月～3月	交通事故の現状と要因 運転者の資質と責任 安全な交通社会づくり 防災・防犯	交通事故の現状・要因・運転手の資質や責任等を理解するとともに、安全な交通社会づくりについて考える。	学年末考查	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<p>◎「保健」という教科は、「健康を保つ」ことを中心に取り扱う授業で、毎週1時間行われます。教科書、保健ノートプリントやワークシートを中心に学習を進めますが、学習に乗り遅れないように積極的に活動することが大切です。</p> <p>◎最近では健康問題がテレビや新聞等で大きく取り扱われます。正しい情報を適切に収集し、日頃から「健康」に関心を持つことと、自分自身の生活から「健康」に関する課題を見つけ、自ら解決する方法を見つけることが大切です。</p>			
評価の観点		◎評価の観点は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3項目を中心とするものとします。			
評価の方法		◎評価は、定期考查を基本に、平常の学習態度（意欲も含む）、小テスト、ノート、課題の提出などを上記の観点に基づき総合的に行う。			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
芸術	音楽 I	2	選択必修	一斉	普通	1

No. 10

音楽 I

教科書（発行所）	MUOUSAI
教科書以外の教材	Music Note（九州高校音楽研究会） Classic Guitar Course 1(ヤマハ ミュージックメディア)

目 標		音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽および芸術を愛好する心情を育てるとともに、芸術に対する感性を高め、音楽の書能力を伸ばし芸術文化についての理解を深め、豊かな上奏を養う。	
学期	学習時期	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	校歌・音楽の基礎 校歌を歌えるようになることと、校歌の楽譜から音楽の基礎を学ぶ。 世界の音楽(歌唱) 1 正しい発声法を学ぶとともに、世界の音楽の特徴を知り、興味・関心を深める。 楽典 1 音楽理論の基礎を学ぶ。	中間考查
	5月	世界の音楽(鑑賞) 1 世界の音楽の特徴と違いを理解し、それぞれの文化への興味・関心を深める。 歌唱テスト～歌曲を歌うことにより、正しい発声法の修得度を評価する。 楽典 2 音楽理論の基礎を学ぶ。	
	6月	クラシックギター奏法の基礎 1 クラシックギターの基本的奏法を身につける。 世界の音楽(歌唱) 2 正しい発声法を学ぶとともに、世界の音楽の特徴を知り、興味・関心を深める。 楽典 3 音楽理論の基礎を学ぶ。	期末考查
	7月	楽典 3 音楽理論の基礎を学ぶ。 歌唱テスト～歌曲を歌うことにより、正しい発声法と歌唱法の修得度を評価する。 舞台芸術～オペラ・オペレッタの楽しみ(鑑賞) 総合芸術への興味・関心を深める。	
	8月		
二学期	9月	クラシックギター奏法の基礎 2 クラシックギターの基本的奏法を身につける。 世界の音楽(鑑賞) 2 世界の音楽の特徴と違いを知り、それぞれの文化への興味・関心を深める。 クラシックギター奏法の基礎 3 クラシックギターの基本的奏法の確認テスト。	中間考查
	10月	西洋音楽史を学ぶ(鑑賞)～時代区分と作曲家 1 世界の音楽(歌唱) 3 正しい発声法の充実を図る～イタリア・ドイツ歌曲に親しむ。 ギターアンサンブル 1 基本的奏法を身につけるとともに、アンサンブルの楽しさを味わう。	
	11月	西洋音楽史を学ぶ(鑑賞)～時代区分と作曲家 2 世界の音楽(歌唱) 4 正しい発声法の充実を図る。イタリア・ドイツ歌曲に親しむ。 ギターアンサンブル 2 基本的奏法を身につけるとともに、アンサンブルの楽しさを味わう。	期末考查
	12月	世界の音楽(歌唱) 4 正しい発声法の充実を図る～日本歌曲に親しむ。 ギターアンサンブル 2 充実した基本的奏法により、さらにアンサンブルの楽しさを味わう。 西洋音楽史を学ぶ(鑑賞)～ベートーヴェンの「第九」について	
三学期	1月	世界の音楽(鑑賞) 3 我が国の伝統音楽について学び、世界の音楽との相違点・共通点を理解する。 ギターアンサンブル 3 アンサンブルの楽しさを味わうとともに、曲を仕上げる。	実力考查
	2月	楽しい創作 1 基本的な和音の構造を学び、簡単なメロディーの創作を試みる。 楽しい創作、簡単なメロディーの創作をすることにより、演奏や鑑賞への興味を深める。 舞台芸術～ミュージカルの楽しみ(鑑賞) 総合芸術への興味・関心を深める。	学年末考查
	3月	総合～グループ学習で仕上げたギターアンサンブルを演奏するとともに、他のグループの演奏を鑑賞することによって、総合的な音楽の能力を伸ばす。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	実技及び理論テストは、定期的に授業の中で実施します。 予習・復習も特に必要ありませんが、普段の授業には積極的に参加してください。 忘れ物がないようにしてください。授業への取り組みがおろそかになる一番の原因です。 提出物やノート、プリント類の整理・保管も丁寧かつ確実に行ってください。		
評価の観点	①関心・意欲・態度：音楽の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組んでいるか。 ②表現の創意工夫：音楽を形成している要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っているか。 ③表現の能力：創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表しているか。 ④鑑賞の能力：音楽表現の創意工夫に基づき、解釈や価値を考慮し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを味わっているか。		
評価の方法	歌唱・ギターの個人の実技テスト、及びグループ学習によるアンサンブルのテストを実施します。 授業内容をノートにまとめたものを定期的に点検します。その他、プリント類の整理、提出物などの状況等も授業に臨む基本的態度として評価していきます。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
芸術	美術 I	2	選択必修	一斉	普通	1

No. 11

美術 I

教科書（発行所）	高校生の美術 1（日文）
教科書以外の教材	

目 標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。				
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	提出物	
一学期	4月	オリエンテーション	授業の受け方（美術室の利用規則・評価方法の説明）	スケッチブック・ファイル・作品提出	
		美術史鑑賞「各時代様式」	原始美術、油彩の発達、版画の発達、写真の発明、印象派まで。		
		記名レタリング（明朝体）	・色の塗り方・混色の基本・色の三原色・色の三要素・レタリング技法		
	5月	デザイン	ピクトグラムをデザインする中でデザインの行程について学ぶ。	夏期課題として美術展感想レポートを提出	
		ピクトグラムデザイン	・ロゴマーク ・ピクトグラム ・デザインの中の色々な色 ・デザインの案出し		
	6月		・デザインの構成要素 ・スケッチ・着彩（アクリルガッシュ） ・トーン配色 ・デザイナーの観察 ・色の性質 ・作品鑑賞		
7月	絵画「画材と基本技法」 絵画「油彩画模写」	画材の用法について学ぶ。また、印象派を中心とした画家の作品を模写することで、画家の心情に迫りながら、表現技法を学ぶ。			
8月		・模写作品の選択 ・等倍拡大法について学ぶ ・道具の扱い ・油絵の仕組み ・色の混色（色の作り方） ・色の配色（12色相環での色分布） ・下地の色の作り方			
二学期	9月		・様々なタッチ・塗り重ね方 ・印象派（絵具チューブの発明） ・印象派の光（光学理論の発達） ・印象派の技法（点描・筆触分割）		
	10月	美術史鑑賞「印象派から現代」	・科学の発達と美 ・繰り返す時代様式（反動と美） ・破壊から生まれる美 ・構図法（目線の高さ）		
		絵画「静物画油彩」	・デッサン・ハッチング ・地面・布のバースペクティブ ・静物画の構図法・黄金比 ・形をはかる・色を比べる ・遠近法重なり、大小遠近法、空気遠近法 ・ものの質感を捉える色の層 ・透視図法（円柱・立方体） ・ものの質感を捉えるハイライト		
	11月				
12月	鑑賞「絵画のみかた」 対話型鑑賞	これまで学習してきた内容をふまえて絵画を観察し、鑑賞する。グループ毎に話し合い、絵の魅力や皆に伝えられるよう内容を工夫し、絵画の構成要素等を手がかりにプレゼンテーションを行う。	スケッチブック・ファイル・作品提出		
三学期	1月	立体 「手を作る～動きのある表現」	「動きのある表現」を主題に、紙粘土で造形し、メタリックカラーで着色する。大きさや形を観察し、質感や存在感を追求して制作する。高村光太郎、ロダン等の人体彫刻を参考とする。		
	2月		・彫刻史 ・量塊（ポリウム、マッス） ・自然に存在するフラクタル構造 ・力・動きの発生する点を捉える	スケッチブック・ファイル・作品提出	
			・デッサン（プロポーション） ・立体の把握（3面図を描く） ・骨組み制作 ・着彩（メタリックカラー）		
	3月		・紙粘土を使用して造形 ・仕上げ（素材を活かす） ・動勢（ムーブマン） ・作品鑑賞		
1年間の学習のまとめ					
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）	①表現や鑑賞の活動において、自身の考えや感想を文章や言葉にすることを心がけましょう。 ②毎時間集中して計画的に制作に取り組むことが必要です。授業を楽しむ姿勢を持ちましょう。 ③制作に行き詰まったり、疑問点が出てきた場合は、積極的にアドバイスをもらいましょう。 ④準備や片付けも授業の一環です。道具は大切に扱い、もとあった場所に整然と美しく片付けましょう。				
評価の観点	①関心・意欲・態度…課題内容に対し、興味関心を持ち、主体的に活動に取り組むことができたか。 ②発想や構想の能力…表現形式の特性を生かし、工夫して創造的な表現の構想を練ることができたか。 ③創造的な技能…必要な技能を身に付け、感性を働かせ制作意図にあった方法を創意工夫できたか。 ④鑑賞の能力…作品の良さや美しさ、心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、味わうことができたか。				
評価の方法	評価の観点を基に、授業への取り組み（出席状況、授業態度、活動への参加状況）、授業作品・スケッチブック（制作意図の理解、創意工夫、感性を働かせた表現等）、ファイル提出（授業に関する反省プリント、鑑賞）を総合的に判断して評価する。				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 12 書道 I
芸術	書道 I	2	選択必修	一斉	普通科	1年	

教科書（発行所）	「書道 I」（教育出版）
教科書以外の教材	

目 標			(1) 書道に対する興味・関心を深め、意欲的に取り組む態度を身につけます。 (2) 書道の基礎的・基本的な知識や技術を身につけるとともに、さまざまな表現技法を学びます。 (3) 多くの作品を鑑賞しながら書作品の良さと美しさを理解し、書道を愛好する心情を育みます。			
学期	月	時間	学 習 内 容 と 学 習 の ね ら い			備 考
一 学 期	4	4	1 授業ガイダンス ・書道 I の学習内容、授業の進め方、取り組む姿勢について理解します。 ・用具・用材について理解します。			道具一式を揃えます。
	5		表 現		鑑 賞	
	6	18	2 硬筆の学習 ・硬筆の特性を理解し、漢字仮名交じりの実用書を学習します。			硬筆作品の特徴を理解します。 個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	7		3 楷書の学習 ・毛筆の特徴を理解し、基礎的・基本的な技術を習得します。 ・臨書(古典を手本にして書くこと)を基本にして学習します。 ・いろいろな表現技法を習得します。			古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・牛欄造像記 ・九成宮醴泉銘 ・顔氏家廟碑 ・鄭義下碑 個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
二 学 期	9	18	4 行書・草書の学習 ・行書・草書の古典を通して学習します。 ・いろいろな表現技法を習得します。			古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・蘭亭序 ・争坐位文稿 ・風信帖 ・書譜 個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	10					
	11	12	5 創作の学習 ・漢字 1～4 字、漢字仮名交じりの短い語句等を題材にして創作をします。			古典や参考作品を鑑賞し、さまざまな表現技法を創作に活かせるようにします。 個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	12					
三 学 期	1	4	6 実用書の学習 ・基本的な小筆の用筆法を学習し、挨拶状等漢字仮名交じりの実用的なものに取り組みます。			参考作品などを通して、さまざまな表現技法を鑑賞します。 個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	2	8	7 仮名の学習 ・仮名の基本的な表現技法を習得します。 ・仮名の古典の臨書に取り組みます。			古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・高野切第三種 個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	3	2	8 まとめ ・制作した自分の作品を通して、授業の成果を振り返ります。 ・自分の作品やお互いの作品をじっくり鑑賞します。			感想の発表やまとめプリントを提出します。
先生からのアドバイス(授業の進め方)			書道では主に毛筆の特性を生かしてさまざまな表現の学習をします。毛筆で文字を書く学習を一生懸命取り組むことにより、次第にその扱いにも慣れてきて多様な表現ができるようになり、書道が一層楽しくなってきます。積極的な粘り強い取り組みが望まれます。			
評価の観点			(1) 書への関心・意欲・態度（書への関心を持ち、主体的かつ意欲的に取り組もうとしている。） (2) 書表現の構想と工夫（自らの感性と意図に基づいて構想し、表現を工夫している。） (3) 創造的な書表現の技能（書のさまざまな表現技法を生かし、効果的な表現をしている。） (4) 鑑賞の能力（書の伝統や文化について理解し、書の良さと美しさを味わっている。）			
評価の方法			(1) 授業中の取り組む姿勢や意欲などを評価します。 (2) 添削等の個別指導をおこない、練習の過程を評価します。 (3) 提出した清書作品で、表現技法の理解や到達度、作品としての完成度を評価します。			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語I	3	必履修	一斉	普通科	1

No. 13

コミュ I

教科書（発行所）	NEW ONE WORLD Communication I Revised Edition（教育出版）
教科書以外の教材	スーパー・アンカー英和辞典（学研） 参考書は別途指示

目 標	様々な題材を読んだり聞いたりして理解するとともに「話すこと」「書くこと」の活動を通じて英語の基礎的な力を養う。			
学期	学習時期	学習事項（文法）	学習のねらい	考查等
一学期	4月 Lesson 1 Let's See the World	基本的な文構造 不定詞	世界には訪れてみたい多くの魅力的な場所がある。英語を身につけて世界に飛びだそう。	第1回実力考查
	5月 Lesson 2 Bread Culture in Japan	比較級, 原級 受け身 進行形	日本人の食生活の現状にふれるとともに, 世界や日本のパンの歴史について理解しよう。	1学期中間考查
	6月 Lesson 3 Why Do Cats Purr?	動名詞 SVO(that節) 形容詞用法の分詞	身近な動物である猫の生態を学び, 猫の様々な特徴について理解を深めよう。	1学期期末考查
	7月 Lesson 4 The Power of Anime	現在完了形 過去完了形 最上級	世界でも高く評価されており, スポーツ選手などにも影響を与えている日本のアニメについて考えてみよう。	
	8月			第2回実力考查
二学期	9月 Lesson 5 Projects with a Difference	関係代名詞	様々な催しや賞から派生した取り組みについてその成り立ちや考え方を理解しよう。	
	10月 Lesson 6 We Are the World	SVO(疑問詞節) SVO+to不定詞 疑問詞+to不定詞	2010年のハイチの地震の被災者を励ますための歌 "We are the World 25 for Haiti"について考えてみよう。	2学期中間考查
	11月 Lesson 7 Learning about Science around You	It is (for ...) to不定詞 It is that... SVOC(現在分詞/原形不定詞)	生命の維持に不可欠な酸素, 近年人々を悩ませる杉花粉, 身近な天体である火星について科学的に考えてみよう。	第3回実力考查 2学期期末考查
	12月 Lesson 8 The ninth Symphony in December	関係代名詞what 関係副詞	第1次世界大戦のドイツ人捕虜収容所から始まった日本での「交響曲第9番」演奏の歴史を学ぼう。	
三学期	1月 Lesson 9 The Spirit of the Modern Olympics	分詞構文 現在完了進行形 現在完了形の受け身	古代オリンピックの伝統を受け継ぐ近代オリンピックを平和の祭典として継続する際の努力について学ぼう。	第4回実力考查
	2月 Lesson10 What is Globalization	SVOO(that節/疑問詞節) 仮定法過去 as if+仮定法過去	我々の生活もグローバル化の影響を受けるようになってきた。私たちは世界市民としてしてよりよい世界造りを目指そう。	学年末考查
	3月 The Conquerors	1年間の総復習	ある将軍が強大な軍隊を率いて近隣の諸国を征服した。最後に征服した平和を愛する小国は将軍の国や将軍をすっかり変えてしまった。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 配布済みのノートを取り方に従って, 自分の参考書となるようなノートを作る。毎日予習をする。</li> <li>2 授業中は, 予習段階で分からなかったところを理解するように心がけ, 積極的に英語を用いて発表する。</li> <li>3 復習は必ずその日のうちに済ませる。不明な所はそのままにせず, 積極的に質問する。</li> <li>4 自宅学習を継続する。(平日は1時間, 土日はそれぞれ2時間程度は最低でも必要。)</li> </ol>			
評価の観点	<p>以下の4つの観点で, 授業時の学習の様子, 提出物の提出状況, 小テストの取り組み, 定期・実力考查の成績を対象に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (コミュニケーションへの積極性がある。)</li> <li>・ 外国語表現の能力 (外国語で話すこと書くことを通して, 情報や考えなどを適切に伝える。)</li> <li>・ 外国語理解の能力 (外国語で聞くこと読むことを通して, 情報を考えなどを的確に理解している。)</li> <li>・ 言語や文化についての知識・理解 (言語やその運用についての知識や背景文化への理解がある。)</li> </ul>			
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考查6割, 実力考查2割, 平常点2割で評価します。</li> <li>・ 定期考查や実力考查は上記4つの観点に基づいて作成します。</li> <li>・ 平常点は提出物や小テスト, 授業中の活動の様子や成果を対象とします。</li> </ul>			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
外国語	英語表現 I	2	必履修	習熟度	普通科	1

No. 14

英表 I

教科書（発行所）	BIG DIPPER English Expression I（数研出版）
教科書以外の教材	スーパーアンカー英和辞典（学研） 英作基本文例600（啓隆社） 参考書・問題集等

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、基本的な言語原則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことができるようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養う。				
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい	考查等	
一学期	4月 Part 1 Lesson 1-3	英文の基本構造 適切な動詞を用いた表現 名詞・冠詞	「だれが」「～する」をはっきりとさせる 動詞をうまく使う 名詞の数に気をつける	第1回実力考查	
	5月 Part 1 Lesson 4-7	肯定文・否定文・疑問文 現在・過去・進行形 未来・完了形	それぞれの文法事項を適切に使って文を作ることができる 辞書を活用できる	1学期中間考查	
	6月 Part 1 Lesson 8-11	助動詞 文型・受け身	助動詞を適切に使って文を書くことができる <主語+動詞>に続く語の関係を理解して文を作ることができる/ <be動詞+過去分詞>の文を作ることができる	1学期期末考查	
	7月 Part 1 Lesson 12-15	不定詞 動名詞 分詞	to-不定詞の用法や<疑問詞+to不定詞>を使うことができる 動名詞を適切に使うことができる 分詞を適切に使うことができる		
	8月 復習			第2回実力考查	
二学期	9月 Part 1 Lesson 16-19	比較級・最上級 慣用表現 関係詞	比較・最上級を適切に使うことができる 関係代名詞・関係副詞を適切に使うことができる		
	10月 Part 1 Lesson 20-21	仮定法 接続詞	仮定法過去（過去完了）, wish, as if などを適切に使うことができる 接続詞を適切に使うことができる	2学期中間考查	
	11月 Part 2 Lesson 1-4	情報・考えをまとめる	英語で次のことができる ①勧誘・提案を行う ②依頼する・意見を聞く、述べる ③確認・訂正を行う ④心配を表す・助言を行う	第3回実力考查 2学期期末考查	
	12月 Part 2 Lesson 5-8	発表の仕方や表現を工夫する	英語で次のことができる ①必要・義務を述べる ②期待・確信を述べる ③謝罪する・謝罪に応じる ④計画・予定を述べる		
三学期	1月 Part 2 Lesson 9-12	情報・考えを整理して発表する	英語で次のことができる ①感想を尋ねる・述べる ②程度・結果を述べる ③願望・目的を述べる ④同情する・励ます	第4回実力考查	
	2月 Part 2 Lesson 13-15	発表を聞いて、自分の考えをまとめる	英語で次のことができる ①感謝・喜びの気持ちを述べる ②賛成・反対を述べる ③意見を尋ねる・述べる	学年末考查	
	3月 復習				
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	予習→授業→復習のサイクルを確立する。 教科書の基本例文やModel sentencesは音読する。 設問は空所だけではなく文全体を書いて解答する。 復習としてポイントを再確認し、音読しながら英文を書き写してみる。				
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションへの関心・意欲・態度（授業時の積極性・TTへの取り組み）</li> <li>外国語表現の能力（定期テスト・実力考查・小テスト）</li> <li>外国語理解の能力（定期テスト・実力考查・リスニングテスト・小テスト）</li> <li>言語や文化についての知識・理解（授業時の積極性・TTへの取り組み）</li> </ul>				
評価の方法	定期考查6割、実力考查2割、平常点2割で評価します。 定期考查や実力考查は上記の4つの観点に基づいて作成します。 平常点は提出物や小テスト、授業中の活動の様子や成果を対象とします。				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
家庭	家庭基礎	2	必修	一斉	普通	1

No. 15  
家庭基礎

教科書（発行所）	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）
教科書以外の教材	2017 生活学・N a v i ・資料+成分表

目 標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等		
一学期	4月	1編1章 生涯発達と家族	人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭の在り方、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識する。	家族・家庭ワーク		
	5月	1編3章 高齢者の生活と福祉			高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解する。	
	6月	1編4章 消費者としての生活と環境	家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得し、現代の消費生活について認識し責任ある消費行動をめざす。	経済ワーク 環境ワーク		
	7月	2編2章 衣生活の管理と健康		被服実習	一学期末考查	
	8月	*ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動				
二学期	9月	2編2章 衣生活の管理と健康	被服の機能と着装、被服材料、管理などの基礎的な知識・技術を習得し、健康で快適な衣生活を営む。			
	10月	2編3章 住生活の管理と健康	住居の機能、住生活と健康・安全に関する基礎的な知識・技術を習得し、健康で快適な住生活を営む。	住生活ワーク		
	11月	2編1章 食生活の管理と健康			栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得し、家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。	
	12月					調理実習①
	*ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	調理実習②				
三学期	1月			調理実習③		
	2月	1編2章 保育と子どもの福祉	乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉について理解し、親や家族、地域、社会の果たす役割が重要なことを認識する。	保育ワーク	学年末考查	
	3月					
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		1 現在の生活の改善とともに、将来よりよい家庭生活を築けるよう意欲的に授業に取り組みましょう。 2 素直な気持ちで周囲と協力しながら熱心にワークや実習に取り組みましょう。 3 ノートは後で見やすいように工夫して記録しましょう。授業後に提出して評価の参考にします。				
評価の観点		「関心・意欲・態度」・・・授業に積極的に参加し、ノート記録もよくなされているか。 「知識・理解」・・・平常の授業の中で学んだことを理解し、認識できているか。 「技術・技能」・・・被服や調理その他の実習について、目標にどのくらい到達しているか。 「思考・判断」・・・示された課題に対して、十分考え、判断することができたか。				
評価の方法		授業への取り組み、提出物（授業ノートや作品）と3回の定期考查から総合的に評価する。 「関心・意欲・態度」20% 「知識・理解」60% 「技術・技能」10% 「思考・判断」10%				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
情報	社会と情報	2	必修修	一斉	普通	1

No. 16  
社会と情報

教科書(発行所)	最新 社会と情報(実教出版)
教科書以外の教材	新課程 最新 社会と情報 学習ノート(実教出版) 教材プリント

目 標		コンピュータやインターネットなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を修得するとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を身につける。	
学期	学習時期	学習内容と目標	考查等
一学期	4月	I. 情報を理解しよう 1 問題解決の手順を知ろう。 生活の中でさまざまな問題を発見し考える。問題解決のためのいろいろな手順と方法を学ぶ。	
	5月	I. 情報を理解しよう 2 基本的な知識と技術を身につけよう。 問題解決のためにコンピュータを活用するための基本的な知識を学び、使用法や活用方法を身につける。(実習 Wordによる文書作成)	
	6月～7月	I. 情報を理解しよう 3 ネットワークで情報を共有しよう。 情報を効果的に活用するために、情報の整理・共有の方法について学ぶ。情報を相手に適切に伝える方法を学ぶ。(実習 メモ帳、ペイント、オートシェイプ)	期末考查
二学期	9月	II. 情報を活かそう。 1 情報を集めよう。 いろいろな情報源とその特徴を理解し、効果的な検索方法を学ぶ。誤った情報や、さまざまな立場からの情報があることを理解する。	
	10月	II. 情報を活かそう。 2 情報を分析しよう。 表計算ソフトウェアを使って数値データを集計する。グラフ機能やデータベース機能を使い、数値データを分析する。(実習 Excelによるアンケート集計)	
	11月	II. 情報を活かそう。 3 情報を発信しよう。 相手に効果的に情報を伝えるための手順や方法を学ぶ。情報発信時に守るべきルールやマナーを学ぶ。(実習 パワーポイント)	期末考查
	11月～12	II. 情報を活かそう。 3 情報を発信しよう。 個人情報の保護、作成者の権利の保護(著作権、知的財産権)について学ぶ。(実習: パワーポイントを使った研究発表)	
三学期	1月～3月	III. 情報を表現しよう。 HTML言語を用いたWebページの製作。(実習: 簡単なWebページの作成とハイパーリンクの設定)	学年末考查
定期 考查	出題方針	教科書の内容を中心に、副教材問題集から出題	
	範 囲	1学期中間	なし
		1学期期末	I. 情報を理解しよう 1 問題解決の手順を知ろう。～3 ネットワークで情報を共有しよう。(教科書、学習ノートから範囲指定)
		2学期中間	なし
		2学期期末	II. 情報を活かそう。 1 情報収集をしよう ～3 情報を発信しよう。(教科書、学習ノートから範囲指定)
学年末	III. 情報を表現しよう(教科書、学習ノートから範囲指定)		
先生からの アドバイス (予習・復習の 方法、 授業の受け方、ノ ートの 取り方等)	<p>○情報活用の実践力の育成が中心なので、実習が半分以上となるので、出席を重視します。</p> <p>○昨今、情報モラルの重要性が叫ばれています。このことも重視します。</p> <p>○「情報嫌いをつくらない」ことが最大のテーマと考えています。</p>		
評価の観点	評価の観点		
	評価の観点は、情報への関心・意欲・態度、情動的な見方や考え方、情動的な表現・処理、知識・理解の4項目とします。		
評価の方法	評価の方法		
	1・2学期の期末考查、学年末考查の年間3回、50分100点ずつのペーパーテストを実施。ペーパーテスト、平常点(実習態度、課題)で総合評価します。		